

茶畑 *SR Times*

令和4年度最初のSSH国際交流行事が5月11日（水）の放課後に実施された。本校の外国語指導助手である Denisse Ramirez 先生を講師に迎え、"Ecuador and Her Biodiversity"と題して、エクアドルの自然と生物多様性について講演していただいた。1年生25名、2年生6名、3年生5名、計36名が参加した。



1. 概要

Biodiversity とは bio(生物)と diversity(多様性)からできた言葉である。エクアドルは世界に 17 しかない Megadiverse countries(メガダイバシティ国家・5000 種以上の固有種が存在し、海に接する国々)の1つである。Endemic species (固有種)とはその場所にしか存在しない種のことである。

エクアドルには the Highlands(シエラ・山岳地帯), the Coast(コスタ・海岸地帯), the Amazon(オリエンテ・熱帯雨林), the Insular Region(ガラパゴス・島しょ地方)の4つの地域があり、気候も生息する動物も異なる。ユネスコ世界自然遺産が2つあり、1つはコスタにある Sangay National Park で、もう1つが the Galapagos Islands である。ここには、ガラパゴスペンギン・ガラパゴスアシカ・ガラパゴスゾウガメを始め、イグアナ、ナマコの固有種も生息する。



エクアドルは環境保全に熱心に取り組んでおり、2008年に制定されたエクアドルの新憲法では世界で初めて"Rights of Nature"（自然の権利）が明記された。それでも、近年は Global Warming(地球温暖化)による問題や「Development(開発) vs. Conservation(環境保全)」などの諸問題が、そんなエクアドルでも起こっている。

“Nature or Pachamama, where life is reproduced and exists, has the right to exist, persist, maintain itself and regenerate its own vital cycles, structure, functions, and its evolutionary processes.”
—Article 71 of Ecuador’s Constitution of 2008

2. 質疑応答

Q: 地球温暖化がさらに進むと生物にどのような影響があると思いますか。また、人間への間接的影響はありますか。

A: エルニーニョにより、異常気象が増え、台風なども頻発し、野生動物や海洋生物にも影響が及びます。例えば、蟹の数が少なくなり、市場に出回る蟹が減り、価格が高騰して人々の食生活にも影響が出ます。10年前にすでにこのような話を親戚が言っているのを聞きました。



Q: ガラパゴス諸島に行ってみたいと思っていますが、その際に動物と触れ合う上で注意することはありますか。

A: あります。厳しい規則があり、ガラパゴス諸島では、人間は動物から2メートル以上離れていなければなりません。ところが、ガラパゴスアシカは人間を怖がらず、人に近づいてきます。アシカから2メートル以上の距離を保つために、人間が逃げ回らなければならないことがよくあります。

3. 講演会を通して得たこと、感じたこと

○エクアドルにはたくさんの種類の生物がいて、自然も豊かなのに、十分な資金がないせいで、その環境を維持するのに困難な状況にあるということや、biodiverseという言葉は「生命」と「とても異なる」という意味から成り立っていることを学んだ。自然にも権利があるという考え(Rights of Nature)は聞いたことがなく、新たな考えを知ることができた。(3年)



○日本には地域による文化の違いが少ないが、エクアドルのように同じ国の中でも環境や考え方、食べるものが全然違う国もあると知って驚いた。また、エクアドルの4つの地域には、日本にはいないようなカラフルな生き物、植物が多いように感じた。その中には、珍しく貴重だと言われる青の色素を持ったものもいて、保全していくべきだと思った。(2年)

○エクアドルの生物、また4つの地域について深く学ぶことができた。生物多様性とは何かという話題から始まり、エクアドルの4つの地域の気候や地形、名所そして地域ごとにたくたんの生物を教えてもらった。日本とエクアドルの比較では、エクアドルは見た目の割に面積が大きかった。そして、自然の保護について学び、日本は自然の保護が進んでいるのだと思った。「人間に生きる権利があるように、自然にも存在する権利がある」というのはいい言葉だと思った。エクアドルで問題となっている開発と自然保護の両立は、エクアドルに限らず、世界規模の問題だと思った。エクアドルは世界で17カ国しかない生物多様性大国であり、16,000種類の生物がいるということは素晴らしいことで、保護し続けてほしいと思った。(2年)

○私は元々ガラパゴス諸島に興味があったので、エクアドルの動植物や自然についてのお話を聞くことができ、良い経験になりました。熱帯に生息する動植物の美しさについて調べることはあっても、それらが抱える問題や保護される対象であるということについて気にかけてはなかったのが、物事に対する新たな視点を持たせたと感じます。また、日本の自然保護の取り組みについてスムーズに答えることができなかったので、日本の自然保護の取り組みについても学んでいきたいです。(2年)

○今回講演を聞いて、英語の話を単語ごとで理解できても、それをまとめた話題としてとらえたり、それを踏まえて質問したりすることは、とても難しいのだと実感しました。また、人間だけでなく、自然にも権利があるという考えは私にとっては新鮮でした。(1年)

○日本の生態系や環境について事前に調べたことで、日本は島国ということもあり、国土面積が狭いにも関わらず、多くの種の生物・植物が生息していることがわかった。エクアドルでは環境に対する取り組みが積極的に行われていて、国民の自然保護への理解が進んでいると感じた。日本もより積極的に保護を行うべきだと思った。(1年)

○エクアドルには地理的に異なる4つの地域があることを初めて知った。ザ・コストとアマゾンで大きな経済格差があるのだと分かった。エクアドルの国旗を細部まで見たことがなかったので、コンドルとチンボラソが描かれていることを知ることができて良かった。自然にも権利があるということを今まで考えたことも、聞いたこともなかったので、視野を広げる良い機会になった。エクアドルにも日本と同じような社会問題があり、それを解決しようとして取り組んでいるのだとわかった。エクアドルには日本とは違う動植物がいることを改めて実感した。(1年)



コンドルが羽を広げる下に、最高峰チンボラソ山、帆船、青空と太陽と黄道などが描かれている。
黄：太陽、小麦、天然資源の富
青：空、海、独立
赤：愛国者の勇気と血潮

○土地を開拓するなど、工業発展に努めるのもとても大事なことだけど、環境を保全することも重要なことであり、どちらに重きを置けばいいのかがとても難しいと思いました。また、エクアドルには様々な地帯があり、その場所によって気候や見られる動物が異なるので面白いと思った。今回の講演を通して、自分のリスニング力がどのくらいなのか確かめることができました。(1年)